アメリカ西海岸 ★ Washington

シアトルでの留学生活

Fred Hutchinson Cancer Center
夏木　誠司
大阪公立大学大学院医学研究科消化器外科学

私は2024年11月より、米国シアトルにあるフレッド・ハッチンソンがん研究センターのDr. Chapuis研究室にて留学しております。日本では消化器外科医として日常診療に携わりながら大学院博士課程を修了後、渡米して約１年が経過しました。自身の研究テーマである腫瘍免疫に関する知見をさらに深めるべく、当該分野で世界をリードする研究機関への留学を志し、幸いにも本研究室にて研究を開始する機会を得ることができました。

留学先探しは、主にメールやビデオ通話によるやりとりのみで進めており、「本当に留学が実現するのだろうか」と不安で地に足がつかない日々を過ごしていました。しかし、無事に留学先が決定し、同門の先生方に盛大に送り出していただいた際には、感慨もひとしおでした。

シアトルは、アメリカ北西部ワシントン州の最大の街ですが、暖流の影響もあって冬でも氷点下になる日は少なく、夏は湿度が低く涼しい、比較的過ごしやすい気候に恵まれています。市内には、マイクロソフトやアマゾン、スターバックス等の世界的企業の本社が集積しており、またシアトル・マリナーズの本拠地であるT-Mobileパークも街の活気を象徴する存在です。晴天の日には、市南部にそびえるマウント・レーニアを一望することができ、自然と都市が調和した魅力的な街だと感じています。

私の所属する研究室は約15名が在籍し、それぞれが担当するプロジェクトを持ちながら、互いに協力し合って研究を進めています。週に一度の全体ミーティングやPIとの個別ミーティングを通じて研究の進捗報告を共有しているほか、周囲にはタンパク質工学、ヒト免疫マウス、バイオインフォマティクスなど多様な分野の専門家が集まっており、日々活発な議論や共同研究が行われています。また、米国内にとどまらず、英国をはじめとする世界各国の大学や企業とも密に連携しており、国際的な研究環境の中で多くの刺激を受けています。現在は、次世代T細胞療法の開発を自身の研究テーマとして、周囲の支援を受けながら研究を進めています。

最後になりますが、このような貴重な留学の機会をご支援してくださいました上原記念生命科学財団の関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。医師として、また研究者として、日本の医療そして生命科学の発展に貢献できるよう、今後も研鑽を重ねて参ります。



←研究施設の外観